

ミズベリング樋井川の活動と持続可能性について

九州産業大学 学生会員〇坂田真実 九州産業大学 正会員 山下三平 竹林知樹スタジオ 非会員 竹林知樹
福岡大学 正会員 浜田晃規 正会員 伊豫岡宏樹 九州大学工学研究院 正会員 田浦扶充子

1. はじめに

(1) 背景

ヒートアイランド現象や地球温暖化が原因とされる集中豪雨によって、都市型水害が頻発している。対策として、雨水管の増強や雨水貯留浸透施設の整備が実施されている。とくに今後の人口減少と施設の維持管理費の増加を考えると、分散型水管理の拡大が急務である。

福岡市城南区の樋井川流域では、分散型水管理を進めるために、平成 21 年から 6 年間、「樋井川流域治水市民会議」¹⁾が実施されてきた。しかし、時間の経過等により、水害対策への意識が低下し、参加者が減少・固定化した。そこで、非日常である水害対策を日常と融合をすることで活路を見出すために、平成 28 年から、国土交通省が推進する「ミズベリング」²⁾を取り入れた「ミズベリング樋井川」³⁾が始まった。

市民主導で減災・治水対策を行っている団体は全国的に少ない。⁴⁾これを行うミズベリング樋井川の活動は貴重な取り組みといえよう。

(2) 研究目的

本研究はミズベリング樋井川のこれまでの活動をふりかえり、この試みが効果的であるか考察する。また、今後の活動の持続可能性を検討することを目的とする。

2. ミズベリング樋井川の活動記録

ミズベリング樋井川は JST-RISTEX の研究プロジェクト組織である、「あまみず社会研究会」⁵⁾が中心となり、

第13回	2017/9/29	19名	さくらの木	・ミズベリング樋井川と地域の活動報告 ・学習会：「樋井川の魚たち」
	2017/9/30		水上公園 Ship's Garden	ミズベリング福岡会議
第14回	2017/10/28	13名	上長尾テラス	・活動報告 ・学習会：吉浦ビル、樋井川村の取り組み紹介
第15回	2017/11/20	13名	さくらの木	・活動報告 ・樋井川、友泉亭横付近での新たな活動企画の話し合い
第16回	2017/12/19	13名	上長尾テラス	・活動報告 ・学習会：「魚部（ぎょぶ）」
第17回	2018/1/25		上長尾テラス	・学習会：ミニマルシェと産しカフェ、その他の講座 ・今後の企画について（産品の募集、朝活系樋井川ウォーキング、博多どんたく城南区演習会とアートの関係、樋井川わくわくウォーキングの企画会議報告、じゃぶじゃぶ樋井川マップの更新）
第18回	2018/2/22		上長尾テラス	・学習会：グリーンインフラ研究交流会の報告 ・今後の企画について（樋井川わくわくウォーキング、博多どんたく城南区演習会とアートの関係、じゃぶじゃぶ樋井川マップの更新、清瀬ウォーキング、樋井川のぼろぼろと暮らす）
第19回	2018/3/17	9名	上長尾テラス	・活動報告 ・学習会：じゃぶじゃぶ樋井川マップ
第20回	2018/4/15	9名	上長尾テラス	・会議前に樋井川さんぽ、川掃除の実施 ・学習会「フットパスとまちづくり」 ・活動報告（ミズベでまったり園、じゃぶじゃぶ樋井川マップの改訂プロジェクト）
第21回	2018/5/12	20名	上長尾テラス	・樋井川さんぽ ・学習会：「タムリンジャー号による全園行脚」の報告 ・上長尾テラスのあまみず活用拠点化について ・「水辺で乾杯2018」について
第22回	2018/6/17	21名	スナック・メノン	・樋井川さんぽ ・学習会：「地域の水系・水管理のマネジメントとまちづくり」 ・「水辺で乾杯2018」について ・上長尾テラスの雨庭化 ・活動報告（RUN伴々と樋井川さんぽのコラボ企画、漁山社中の運送の碑の発掘） ・熊本「にこ川のセマタノ・オロイたいに」、「かわ」の紹介 ・水辺で乾杯 2018
第23回	2018/7/21	20名	上長尾テラス	・樋井川さんぽ ・学習会：「上長尾川の多自然川づくりと地域小学校との関わり」 ・RUN伴々とのコラボ企画について ・活動報告（じゃぶじゃぶ樋井川マップ）
第24回	2018/8/23	21名	上長尾テラス	・学習会：「豊福治水を風川にカエル会」 ・RUN伴々とのコラボ企画詳細 ・夜の樋井川さんぽ家 ・活動報告（橋大で雨庭センターを製作・寄付活動中、「こどもFUKUOKA来未博2018」であまみずブースを展示）
第25回	2018/9/22	19名	上長尾テラス	・樋井川さんぽ ・学習会「東京しそによる「ミックス」の開催」 ・活動報告（RUN伴々とのかき、海外から雨庭園いセンターに見学、ふれあい城南フスティアバル、ぐりびきキャンペーン22世紀の園づくりデザインコンペの一次通過、等）
第26回	2018/10/18	13名	上長尾テラス	・活動報告（RUN伴々とのコラボ、じゃぶじゃぶマップ完成、ふれあい城南フスティアバル、グリーンメイトの活動、ミニマルシェ最終回、DIYで園上機化を作りた、まったり園） ・企画：①ミズベリング樋井川の役割について、②園のコンサートについて
第27回	2018/11/17	15名	スナック・メノン	・樋井川さんぽ ・活動報告（じゃぶじゃぶマップ印刷終了、グリーンメイトの活動、まったり園、カルガモテラス開通、UR城野駅北・樋井川ツアー） ・学習会「米園オーランド市のサン・レオナルドのコミュニティデザイン」
第28回	2018/12/18	13名	あめいわ園いセンター	・学習会「雨水管理施設ならび地域防災拠点として大学キャンパスのあり方」 ・活動報告（グリーンメイトの活動、まったり園、UR城野駅北・樋井川ツアー、漁山社中、オーランド線終都市）

平成 30 年 12 月までに計 28 回の会議を行っている。その概要は表-1 のとおりである。

会議では毎年 7 月 7 日に「水辺で乾杯」を行っている。平成 30 年 4 月から会議前に川遊びや清掃活動を行う「樋井川さんぽ」を実施し、より川を身近に感じられる活動が含まれるようになっていく。各参加者の活動報告の時間では、会議を重ねることに報告数が増加している。また、参加者同士で協力を依頼する場面も見られ、参加者の絆が強くなり、広がりも見せている。

3. アンケート調査

ミズベリング樋井川の持続可能性を探るために、その参加者の意見を尋ねるアンケート調査を実施した。その概要と質問項目を次の表-2 と表-3 に、それぞれ示す。

表-2 アンケート概要

アンケート	2018年
開始日	10月15日
目標人数	20人以上
回収人数	20人
記述方式	選択 自由記述
回収方法	直接回収 メール

表-3 質問項目

	基礎情報	Q4-1 流域の変化 活動効果
		Q5-1 学習会に ついて
Q1-1	参加手段	Q6-1 樋井川さんぽ について
Q2-1	イベント 参加状況	Q7-1 参加者の継続 の意思
Q3-1	参加時期	
Q3-2	参加理由	自由記述

4. 参加者の意見

(1) 属性

ミズベリング樋井川の参加者の約半数が地域団体や民間事業者などの地域住民である(図-1)。幅広い世代が参加しているが、とくに30から40代の子育て世代の参加率が高い(図-2)。また、参加のきっかけはほとんどが友人や知人等からの紹介である。

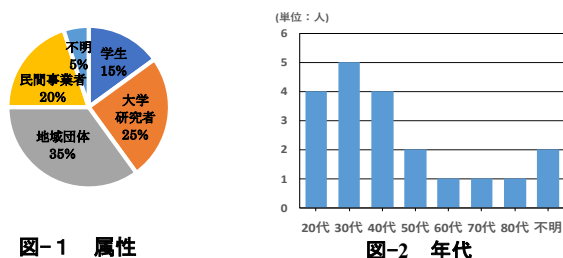


図-1 属性

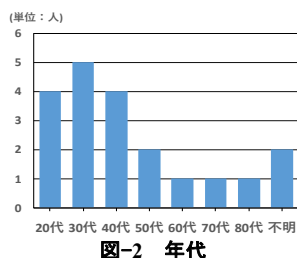


図-2 年代

(2) 参加の目的

第1～3回の参加者7人中5人はあまみず社会研究会のメンバーであり、それ以外は、地域住民や学生である(図-3)。参加者のほとんどが樋井川に興味をもち、地域の住民と交流を目的に参加している(図-4)。第20回以降では、ミズベリング樋井川に自分たちの活動のためにアイデアを提供する人や、コラボ企画をもちかける団体など、新たな可能性を求める参加者が見られるようになった。

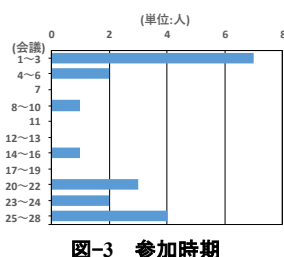


図-3 参加時期

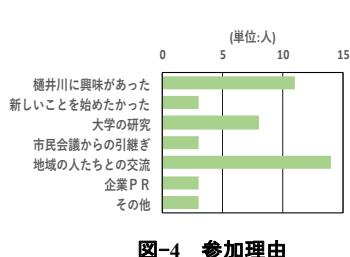


図-4 参加理由

(3) 活動の成果と継続の意思

ミズベリング樋井川では持続的に実施できる工夫として「学習会」と「樋井川さんぽ」を設けている。

学習会是他団体の活動や企業の技術などをテーマに科学的な学習を行う時間である。参加者に今後もこれを継続すべきか質問したところ、全員が継続すべきだと答えた。その理由として「新しい知識が多く得られるから」が最も多かった。

「樋井川さんぽ」について、会議前に実施していることに関して意見を聞いたところ、「川を身近に感じやすい」という意見が最多であった。次に「同日に両方参加でき都合がよい」という時間的要素が多かった。体験に基づいて学習する意義が示唆される。

ミズベリング樋井川が設立の当初と比べて、現在の身の回りに変化があるかと質問したところ、「ご近所付き合いが増えた」「災害対策を意識するようになった」「川で遊ぶ光景が見えるようになった」「ゴミの量が減った」の意見が最多であった(図-5)。

今後もミズベリング樋井川へ参加し続けたいと思うか質問したところ、回答者全員が思うと答え、この活動を通して、子供達が楽しめるもの等をやりたいという熱意が示された。

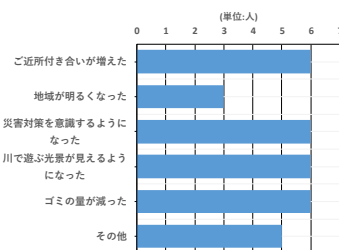


図-5 参加者が思う身の回りの変化

5. まとめ

本研究ではミズベリング樋井川のこれまでの活動を整理した。また参加者の意識の調査を行った。その成果をまとめると次のようになる。

- 1) ミズベリング樋井川は設立当初、流域内での人のつながりを広げることを目的としていたが、約3年間の活動を得てその広がりは樋井川流域外まで広がった。
- 2) 「学習会」や「樋井川さんぽ」は参加者の興味を引くものとなっており、この積み重ねが、災害意識の向上や、身近な環境の変化につながった。体験に基づく学習の意義が示唆された。

非日常である水害対策を日常の楽しい活動とするためこの活動は始まり、今では樋井川流域外にまで人々の繋がりは広がった。水害対策のミッションと楽しさの共存という2つの方針の重要性が確認される。今後もその持続性の検証を続ける予定である。

謝辞

本研究はJST-RISTEXの研究プロジェクト(「分散型水管理を通じた、風かおり、緑かやぐ、あまみず社会の構築」として行われたものである。また、アンケートにご協力くださったミズベリング関係者方々に感謝の意を表し、心から御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 樋井川流域市民会議 <https://sites.google.com/site/hihikawashiminkaigi/>
- 2) ミズベリングプロジェクト <https://mizbering.jp/>
- 3) ミズベリング樋井川 <https://www.facebook.com/mizberinghiikawa/>
- 4) RISTEX 社会技術研究開発センター <http://ristex.jst.go.jp/>
- 5) 下田 大貴: ミズベリング樋井川をととした分散型水管理のためのコミュニティの形成 九州産業大学論文 2017
- 6) 水辺で乾杯 <https://mizbedekanpai.mizbering.jp/>